

社 会 主 義 と ス ポ ー ツ

= 中国の競泳タレント選抜基準と旧ソ連青少年
スポーツ学校およびコーチ資格について =

叢 寧麗*・遠田 守**・佐野 裕***・荒木昭好****

Socialism and Sports: about the criterions for selection of sports
talents and the coach certifications in China and USSR.

Cong Ningli*・Mamoru ENDA**

Hitoshi SANO***・Akiyoshi ARAKI****

I. はじめに

戦後、日本の競泳成績はアジアの水泳界において常に上位の成績を示してきた。しかしながら、1980年代後半以降の中国の競泳レベルの向上には著しいものがあり、今日の中・日両国間の競泳レベルは拮抗した状況にある。この中華人民共和国の社会主義的体育スポーツ体制に多大な影響を及ぼしたのがスポーツ強国のひとつであった旧ソ連邦である。

確かに、スポーツにおいて示される一国の総合的な競技力というものは単にスポーツ選手の資質の優劣によって規定されるものではなく、その国の政治や経済、科学技術や文化状況などスポーツをとりまく社会全体の諸条件に加えて、エリート選手の選抜養成方法やコーチ制度、組織の構造や運営方法などのスポーツ体制に深く条件づけられていることは当然である。したがって、競技力の国家間比較を意図するというのであれば単なる競技成績や身体の状態的特徴を比較するだけでなく、こうした競技力に及ぼす条件因子の貢献度を明らかにすることが必要となる。

ところで、比較を意味するCompare(英), Compere(仏)はラテン語の[com=together,

* 横浜国立大学客員研究員 (成都体育学院: Chengdu Institute of Physical Education)

** 東京山手YMCA (Tokyo Yamate YMCA)

*** 横浜国立大学 (Yokohama National University)

**** 東京都立科学技術大学 (Tokyo Metropolitan Institute of Technology)

parare=to get ready, provide] の意や [com+par=equal] の意味を内在させ、前者は「獲得する—obtain, acquire」に転意し、後者は「共に合わせる」「等しいものにする」という意味をもっている。それは等しからぬものを前提にそれぞれをくりあわせて同一の座標軸に照らしてその異同を明らかにする用語として14世紀以降の英仏において使用されてきたという。ちなみに、日本語の「くらべる」という語は異なるものを「クリアワセル」という省略語で「同じにする」という意味を語義の背景に含むが、ドイツ語の「比較—vergleichen」もこれらの語義と同様に [ver=together, gleichen=equal] の意味をもっている。こうしてみると、一般に比較は異質を前提に類似性の強弱を問題とし、共約可能な関連する事物を共通の尺度をもちいて較べ、そこに彼我の異同を見出そうとする方法態度であるということが出来る。したがって、比較する対象が果して共約可能であるのか否か。比較する意義があるのかどうか常に関わなければならないといえよう。アジアの水泳界をリードする日本・中国両国の制度的特性を比較検討するというのであれば、まずもってその実態が明らかにされなければならない。

周知のように、スポーツの国際大会における勝敗がその国の国家的威信に結び付けて考えられたり、国民統合の手段に利用されたりする例がある。これらはスポーツのもつ社会的機能のひとつであるが、今日ではオリンピックにおけるメダル獲得競争にも見られるように各国は競い合うように競技力向上を目指している。もとより、本稿における問題関心はこうした競技力の向上に直接的に裨益するところにはない。ここでは異なる社会体制の下でスポーツタレントの選抜方法(旧ソ連邦)や競泳タレントの選抜基準(中国)にどのような特徴があるのか。比較検討するための基礎的知見を得ようとするものである。

中華全国体育総会科教部と日本体育協会スポーツ科学委員会は、「スポーツにおいては中・日両国は好ライバルである。アジア大会をはじめアジアの中では両国はほとんどのスポーツ種目で王座を競り合う仲であり……(中略)、こうした体格や体力の両面で両国民は似ているか違いがあるのかをきちんと確かめることは、学術的にも興味をもたれるところであるし、その意義も深いものであると考えられる」として、「青少年の体力に関する中日共同研究」「陸上競技選抜ジュニア選手の体力に関する中日共同研究」を実施した¹⁾。それによると、(1)体格では長育においては全体的に中国が男女共に優れている傾向を示した。身長、座高、下肢長、大腿長、下腿長は中国のほうが長い。上肢長は中・日両国間に差が見られないが、上腕長は日本が長く、前腕長は中国が長い傾向を示した。また、手長、足長はともに日本が長い。全体から見ると長育では一般に中国が優れ、幅育や量育では日本が優れている。中国は日本に較べ身長で優れているが(細長型)、日本は体力の総合レベルで優れている(体力テストの総点が中国より高い)。(2)皮脂厚はいずれの部位も日本が厚く、体脂肪率も日本が高い。(3)骨年齢は同一年齢では日本のほうがやや高い数値であり、発育がやや速い(成人化が進んでいる)傾向を示している、などである。

こうした体格・体型の違い及び発育発達の現状を前提にして中国の競泳タレントの選

抜方法・基準にはどのような特徴が見られるのであろうか。また、既に過去の所与となった旧ソ連邦の諸制度であるが、資本主義的市場経済の導入に狂奔するロシアは旧制度の何を継承し、何を廃棄しようとしているのか。ロシアの今後のスポーツ体制の動向を探るうえで、旧来のソ連邦青少年スポーツ学校やコーチ資格などの制度的特徴について整理しておく必要がある。

II. 中国の競泳タレント選抜方法について

中国にはスポーツのタレント発掘を目的とする「選材学」という研究分野があり、国際大会における勝利を重要な課題としている。ここでは競泳タレントの選抜方法について概観する。中国では優れた水泳選手を養成するために才能のある人材を発掘する全国統一基準が設けられている。その施行細目は「遊泳教学訓練大綱」に明示されている。水泳選手の養成は他のスポーツ種目と同様に「业余体育学校」において実施されている。1955年、最初の业余体育学校が北京、上海、天津などいくつかの大都市に開設された。业余体育学校には「競技体育学校」「体育運動学校」「重点业余体育学校」「体育中学」「単項目運動学校」などがある。1988年現在、业余体育学校は3,585校、生徒数23万7,000人という報告もある²⁾。业余体育学校の主旨は、一流のスポーツ選手あるいは社会的なスポーツ活動に従事する指導者を養成するために、业余时间を利用して智・徳・体の全面的に発達した良好な素質をもつ児童・少年に対して一貫したトレーニングを施すことにある。水泳種目専門の体育学校は50校近くあり、この中で北京体育学院附属競技体育学校および武漢体育学院附属競技体育学校は水泳重点校としても有名である。いずれにしても、こうした业余体育学校で養成された人材は中国のナショナルチームクラスの選手の約85%を占めている。

ところで、エリートスポーツ選手の養成は「三集中」の原則にもとづいて運営される。すなわち、全寮制寄宿学校において一緒に住み、訓練し、食べるという方法（午前中は学習、午後は訓練）である。中国では「選抜は訓練成功の半分」といわれている。科学的な選抜方法は国家の体育・スポーツ予算の効率的運用を保障し、スポーツマンの将来性を科学的に予測することによって競技生活における挫折率を減少させることができると考えられている。第3回アジア水泳選手権大会（広州）で50mクロールの世界記録を樹立した楊文意選手（上海チーム）の成功例がその一例である。楊選手は「水中で軽く漂う」「優れた遺伝的素質をもつ」（例、父親-181cm、母親-169cm）、「水泳が好き」という特徴を持つ。このように水泳において優れた身体的特徴と精神的資質に恵まれ、将来性にある選手を選抜することが重要である。中国では1974年から優れた選手の選抜方法に関する研究が上海で着手されたが、水泳選手の科学的選抜方法は中国においても新しい分野であり、選抜の理論、方法、手段などは未だ体系的に完成されていない³⁾。一般的に理想的な水泳選手の条件として次の項目が挙げられている⁴⁾。

- | | | |
|----------|--------------|--------------------|
| (1)身長が高い | (2)体重が軽く骨も軽い | (3)腕の長さが長い |
| (4)肩が広い | (5)寛骨が窄い | (6)体型が逆三角形で脂肪がすくない |

- (7)皮膚感覚が鋭敏 (8)柔軟性がある (9)腰筋力、瞬発力がある
(10)水感が良い

具体的な評価項目は以下の通りである。

◇形態的項目

- 1) 身長—男子は180cm以上、女子は170cm以上が望ましい
- 2) 身長・体重指数=身長÷体重-100
- 3) 身長・両腕間の距離指数=両腕間の距離÷身長
- 4) 胸囲指数=胸囲÷体重
- 5) 流線形指数=(寛骨+肩の長さ)÷(長さ×2)×100
- 6) 皮脂厚指数=肩甲骨下+傍臍
- 7) 手掌面積指数=手長×手寛

◇生理機能項目

- 1) 心臓機能指数= $(P_1 + P_2 + P_3) - 200 / 100$
 P_1 : 安静時心拍数 (15秒×4)
 P_2 : 運動直後心拍数 (15秒×4)
 P_3 : 運動1分後の心拍数 (15×4)
- 2) 肺活量体重指数=肺活量÷体重
- 3) 腕力指数=腕力÷体重

◇身体素質

- 1) 筋力系—背筋力、腰筋力、垂直跳び
- 2) 柔軟性—伸足 (足底屈), 勾足 (足伸屈), 肩関節 (反腕体前屈)
- 3) 浮力・平衡機能—静的バランス, 動的バランス
- 4) 水捌面積—肘の広さ (子臂面積), 前腕・上腕・大腿の周径囲度

上記のような評価項目に沿って中国優秀水泳選手の理想像が示されている。その具体的モデルを表-1に紹介する。

表-1. 中国優秀水泳選手のモデル⁵⁾

指 標	男	女	指 標	男	女
身 長	181.00cm	171.20cm	体重×1000/身長	378.1以上	294.7以上
両手間隔	188.70cm	173.20cm	下肢長—小肢長	91.0以上	94.9以上
肩 幅	43.29cm	39.30cm	(身長—座高)×100/座高	84.9以上	86.8以上
腕 力	188.40kg	126.70cm	踝囲×100/腿腱長	100.7以上	103.5以上
肺 活 量	591.00ℓ	42.6 ℓ	腕力/体重	1.9以上	1.5以上
垂直跳び	56.5 cm	38.30cm	肺活量/体重	66.3以上	58.8以上

ちなみに1982年統計の全国10位以内の中国優秀選手の平均的実像は、次の表-2に示す通りである。理想とするモデルに近い資質の選手を如何にして科学的に発掘し養成するか。それが今後の課題といえる。

表-2. 1982年度中国優秀水泳選手(10位以内)の平均的身体資源

身 長	♂平均175.68cm	♀平均166.09cm
体 重	69.18kg	55.76kg
肩 幅	41.08cm	***
胸 囲	96.30cm	***
安静時心拍数	61.72回	65.22回
肺 活 量	5128.90 ℓ	3902.40 ℓ
最大酸素摂取量	4.40 ℓ	3.41 ℓ

◇心理的特徴：水泳に対する高いモチベーションとコーチの指導内容を理解する能力の有無。

◇水 泳 技 術：フォーム、リラクゼーション、泳ぎのリズムなどの主観的評価に加えて200m個人メドレーの記録を参考に水泳能力を推定する。

◇遺伝的素質：赤筋、白筋の筋組成比率および皮紋(指紋も含む)が重要とされる。皮紋と水感との関係については未だ仮説にすぎないが重視されている。

◇水 感：水感は「軽・粘・浮」によって構成される。「軽」とは動的平衡状態である水泳中のストリームラインを意味し、「粘」とは水をキャッチする感覚、「浮」とは浮力を示す。水感の良い悪いは選手を選抜する時にもっとも重要な要素であるが、現在のところは水感の評価はコーチの経験に頼っており、科学的に測定する方法は未だ開発されていない。定性的評価に加えて定量的評価方法の確立が待たれている。

3) 総合的評価基準について

◇客観的基準：上記の評価項目について測定した結果を年齢別評定基準にもとづいて点数化する(表-3)。

表-3. 評点項目の配点⁶⁾

年 齢	形 態	機 能	素 質	水泳記録
9-11才	10%	10%	10%	70%
11-12才	5%	5%	5%	80%
13-14才				100%
15才以上				100%

さらに骨年齢発達の評価も加えて最終的なタレントの質、将来性を判定する⁷⁾。一般に人間の年齢を測定する指標には生物年齢の指標としての骨年齢と歯年齢があり、さらに生活年齢としての日暦年齢がある。中国ではこの骨年齢を发育発達を測る指標としてもちいている。骨年齢は日暦年齢とは異なり選手の发育発達の状態を正確に評価できる。選手の日暦年齢が骨年齢と一致するかまたは骨年齢よりも遅いほうが将来性が高いと判断される。思春期は第2次发育発達の高峰であり、中国では男子は13-14才、女子は11才-12才である。Greulion Pyle骨の发育状態のX線撮影によって判断される。ソビエトの

国際級水泳選手の骨年齢の研究によれば、骨年齢が日暦年齢よりも1年程度遅い傾向が見られたという。中国の全国大会も6位以内の入賞者、91名のエリート水泳選手の追跡調査結果は表-4に示す通りである。

表-4. 中国全国6位以内入賞者の年齢調査

発育発達類型	女(12才)	男(14才)	計	%比率
早熟発達者	1	0	1	1.86
平均的発達者	28	18	46	0.52
遅延発達者	4	3	7	12.92

X線撮影により骨化の状況进行评估して生物年齢を確認するが、その配点基準は次の如くである。

半年以上発達の遅い者	10点
平均的発達の者	9点
半年発達の早い者	8点
1年発達の早い者	4点
1年半発達の早い者	1点
2年以上発達の早い者	0点

◇主観的評価：

完全に定量的に測定することができない項目については、コーチの長年の経験を加えて総合的に判断せざるを得ない。時に水感とは「水泳選手の生命」といわれるが、水感の本質については論者によって多様な理解がなされている。水感とは皮紋、筋肉、関節などに存在する浅部および深部の感覚受容器の感受性の鋭敏性にその本質がある。水泳選手は水泳中に水の流れを感じ、手・指先で水をつかまえる感覚がなければならない。水感とは先天的な能力なのかそれとも後天的に獲得される能力なのか未だははっきりしないが、現在のところは先天的な能力のひとつであると考えられている。

◇総合的評価⁸⁾：総合的評価は客観的評価と主観的評価を一定の配点基準にもとづいて加算しておこなう。

- ◆予選：5～7才に各业余体育学校のコーチは幼稚園や小学校や少年活動センターなどで選ぶ
- ◆初選：20～30回の水泳指導の後に選抜したり、あるいは夏休みを利用して多数の子どもを短期合宿させてその中から選抜する
- ◆復選：女-9～10才、男-10～12才を対象に3～4年間の基礎訓練の後、重点业余体育学校などの集中班に入学する
- ◆精選：優秀運動隊にはいる

中国には全国統一の「教学・訓練大綱」があり、一貫した系統的指導がなされている。養成経費は国家から支給される。特選は選手の等級（中国水泳選手等等級標準）によって異なる。たとえば、健将級とはボール類のスポーツ種目の場合、一般的に中国選手権

大会などで6位以内の入賞者を指す。水泳は等級標準によって決定される。これらの優れた選手は上に記した「優秀運動隊」やナショナルチーム、解放軍チームにスカウトされ、本人および親の希望と承諾が得られればそのチームに入ることになる。解放軍チームは待遇が良いので多くの選手は解放軍チームに入りたいことを希望している。その場合、戸籍も移動することになり、この点が日本とは際立って異なるところである。尚、1級は「優秀運動隊」に入り、2級の80%以上および3級の殆どは业余体育学校に在学する。総合的評価における客観的および主観的評価の比率についての本稿の考え方は表-5に示す。

表-5. 総合的評価の配点基準

年 齢	形態・機能	身体素質	コーチの評価	水泳記録	骨 年 齢
7才前	55%	35%	***	10%	+12ヶ月以内
7-10才	40%	25%	20%	15%	同 上
10-14才	20%	20%	20%	25%	15%
15才以上	10%	30%	10%	30%	20%

(叢寧麗, 1992)

4) 今後の課題

- (1)水感の定量的測定方法は未だ不十分であり、今後一層研究する必要がある。
- (2)選抜評価基準を更に合理的なものにする。
- (3)主観的評価と客観的評価法は共に重要であり、両者の相互関係を科学的に明らかにする。
- (4)選抜はあくまでもひとつの予測であり、年齢の低い段階の選抜ほどその予測は難しい。したがって、より合理的な選抜システムを開発する必要がある。
- (5)選抜はスポーツ人口の広い裾野、すなわち大衆的基盤の上に立ってなされることが望ましい。中国では人口に比して水泳の普及度が低く、水泳の大衆的基盤が弱い。
- (6)中国ではスポーツ選手への社会的支持が弱い。即ち、能力不足、病気、怪我あるいはバーンアウトやその他の理由で途中で挫折した選手に対するアフターケアが不十分であり、そのために大学へ進学させたい親は多いが、子どもをスポーツ選手にしたい親は少ない。その意味で、才能ある選手が安心して競技生活に打ち込める社会的環境を整える必要がある。

註

1. 日本体育協会スポーツ科学委員会, 中華全国体育総会科教部編「青少年の体力に関する日中共同研究」第1報, 第2報, 日本体育協会, 1991.
2. 片岡義則「中国エリート選手養成としての业余体育学校制度の研究」日本体育学会神奈川支部研究会発表資料
3. 謝燕群「運動員の選材学」四川人民出版社, 1990. 1.
4. 「游泳」全国体育学院専修通用教材, 人民体育出版社, 1990. 6.
5. 同上

6. 中国游泳協会, 中華全国体育総会群本部, 上海游泳協会, 上海体育科学研究所「走向未来—現代游泳技術と選材—」, p. 110. 1991. 4.
7. 朱泰胃「骨年齢で発育発達の測定の科学選材」『游』所収, 1989. 5.
8. 吳捷平「水泳選手選材の探索」『游泳』所収, 1990. 1 および前出書(6)p. 100-109.

III. 旧ソ連邦の青少年スポーツ学校 (ДЮСШ) の入学選抜基準

わが国の臨時教育審議会の「教育に関する第三次答申」(1987. 4. 7付)の第4章「スポーツと教育」には, スポーツ学校(6年制中等学校)の設置がうたわれている。このスポーツ学校の設置についての言及が第4章第2節の「競技スポーツの向上」の文節において提言されていることからみても, それはオリンピックなどの国際大会におけるメダルの獲得を至上目的としたものであることは疑い得ない。もちろん, こうした文脈に位置づくこの種のスポーツ学校の設置構想に対しては, 早期の専門的トレーニングのもたらす弊害や性急なエリートスポーツ少年の育成がはらむ問題点などが指摘され, 様々な疑問や反対意見が表明された経緯がある。

ところで, スポーツ学校といえばソビエトの青少年スポーツ学校(Детско юношеская спортивная школа—ДЮСШ と略記される)にその先例をみることができる。中国における业余体育学校もこのДЮСШをモデルに設立されている。旧ソ連の体育・スポーツ制度について体系的に紹介した文献はいくつかあるが^{1) 2) 3) 4)}, 青少年スポーツ学校について言及した文献は少なく, なかでも選抜基準や方法について論及した文献資料を見出すことは難しい。わが国における旧ソ連邦のスポーツ学校に関する基礎的な情報は著しく不足していたということができよう。

1. ДЮСШ の概況

ДЮСШの生誕の経緯, その歴史的展開の詳細についてはわが国では未だ詳らかにされていない。Н.Ф.クリンカによれば1934/35年に最初の少年スポーツ学校がモスクワとトビリシに設立されたという⁵⁾。今村, 富山の共著では「少年スポーツ学校は1945年にはじめてつくられた」(282頁)とある⁶⁾。また, J.リオルダンによれば最初のスポーツ寄宿制学校(Sport boarding school: Спортивная Школа Интелнат)が1962年タシケントに開設されたという。川野辺は, この種のスポーツ学校はソビエト全土で約5000校あると報告しているが⁷⁾, 問題なのはДЮСШの創設の歴史, 学校の現在数, 生徒数などが論者によって異なり, この点での基礎的な調査研究が不足しているという点である。

既に明らかなようにソビエトにおける課外スポーツクラブには多様な形態があり, スポーツ学校以外にも身体文化コレクティブ, スポーツクラブ, 文化と休息の家やピオニールなど, その他様々な組織形態がある。ДЮСШは課外スポーツの特殊な施設であり, 教育省, 労働組合, スポーツ委員会やピオニール, 任意体育スポーツ団体(ДФСО)などがその施設を利用して開設している。法的な位置づけは1970年2月10日付きの全ソ連邦労働組合中央会議(ВЦСПС)の決定にもとづいて整備された⁸⁾。

В.П.フィリン⁹⁾, В.А.アシュマリン¹⁰⁾, А.А.グジャロフスキー¹¹⁾らはスポーツ学校

の課題に次の項目を挙げている。

- (1) 青少年スポーツマンの全面的発達をはかること。
- (2) インストラクター、活動家、スポーツ審判員の養成。
- (3) 大衆的に課外スポーツを組織する上で学校を援助すること。

ソビエトでは青少年は生活年齢に応じて次の三つのグループに分けられる。日本とは学制が異なるが用語を対応させれば小学生(Младшие школьники - 7~17才)、中学生(подростки - 11~15才)、高校生(старшие - 15~17才)である¹²⁾こどもたちは各人のスポーツ技能のレベルに応じてスポーツ学校の各コースに入学する。スポーツ学校には次のようなグループを対象とするコースが設けられている¹³⁾。

◇初級グループ (группы начальной подготовки)

: 初心者から青少年スポーツ等級2級取得者までを対象とする2年間のコース

◇スポーツトレーニンググループ (учебно-тренировочные группы)

: 青少年スポーツ等級2級取得者を対象に3~5年のコース

◇完成グループ (группы Спортивного совершенствования)

: 青少年スポーツ等級1級およびスポーツマスター候補を対象に4~5年のコース

スポーツ学校ではそれぞれのグループの一日および週間のトレーニング時間が生理学、解剖学、教育学、心理学などの学問的成果に基づいて決められており、オーバーロードにならないように配慮されている¹⁴⁾。こうしたスポーツ学校はその学校のトレーニングレベルに応じた入学者を選抜しているが、そのタイプは次のように大別される^{15) 16)}。

◇ДЮСШ: 青少年スポーツ学校 (Children's and young people's sport school)

◇СДФШОР: Специализированные детско-юношеские школы олимпийского резерва

: オリンピック予備軍青少年スポーツ専門学校 (Sports proficiency school)

◇ШВСМ: Школы высшего спортивного мастерства

: 上級スポーツマスター学校 (Higher sports proficiency school)

また、里見らはこうしたスポーツ学校をパートタイム制、フルタイム制、寄宿制に分類している¹⁷⁾、それらの区分が上に記したII. フィリンら及びJ. リオルダンの分類する三つのタイプとどのように対応するかは不明である。

2. ДЮСШの入学募集

ДЮСШの生徒募集のひとつに日刊「ソビエツキースポルト」紙上における生徒募集がある。たとえば、1987年の3月と4月の案内文には次のようなキャッチフレーズが見られる。

3月12日: スポーツ学校について—警鐘と期待をこめて

: モスクワ軍管区レーニン勲章青少年スポーツ学校選抜試験案内

3月21日: 新学期だ! 大胆に挑戦しよう。柔道の才能がある人は……

4月4日: 勇敢に進もう。新学期だ! スポーツ学校応募者のための試験

: スポーツ学校について—期待と警鐘

4月8日: 青少年フットボーラーよ! フットボールクラブ《トルペダ》付属オリン

ピック予備軍青少年スポーツ専門学校の選抜。1975年～1980年生まれの人を対象に募集。

4月12日：“A”という成績であるなら夢をもとう。その夢はどこでかなえられるか。

資料1. 日刊「ソビエツキースポルト」(1987.3/12日付)新聞紙上にみるスポーツ学校生徒募集の広告

**ЦЕНТРАЛЬНАЯ ЛЕГКОАТЛЕТИЧЕСКАЯ СПОРТИВНАЯ
ШКОЛА ОЛИМПИЙСКОГО РЕЗЕРВА
ИМЕНИ БРАТЬЕВ ЗНАМЕНСКИХ
МОСКОВСКОГО ГОРОДСКОГО СОВЕТА
ДОБРОВОЛЬНОГО СПОРТИВНОГО ОРДЕНА ЛЕНИНА
ОБЩЕСТВА «СПАРТАК»
ОБЪЯВЛЯЕТ**

конкурсный набор девушек и юношей 1971—1974 годов рождения, имеющих в одном из видов легкой атлетики следующую подготовку:

1974 г. р. — I юн. разряд.

1973 г. р. — III разряд.

1972 г. р. — II разряд.

1971 г. р. — I разряд.

Желающие принять участие в конкурсном просмотре должны направить в приемную комиссию спортивной школы заявление и сообщить о себе следующие данные:

1. Фамилия, имя, отчество.
2. Год и месяц рождения.
3. Рост, вес и стаж тренировки.
4. Где обучается, в каком классе и успеваемость.
5. Лучшие результаты в видах легкой атлетики (когда и на каких соревнованиях показаны в 1986—1987 годах).
6. Где в настоящее время тренируется.
7. Фамилия, имя, отчество, домашний адрес тренера, учителя физкультуры.

Отобранные на основании письменных заявлений кандидаты будут вызваны дирекцией школы в Москву на конкурсный просмотр, который состоится в дни школьных каникул в июне.

Участники конкурсного просмотра обеспечиваются жильем и питанием.

Заявления о допуске к конкурсному просмотру и анкетные данные просим направлять по адресу: 107014, г. Москва, ул. Стромынка, дом 4, ЦЛАСШ имени братьев Знаменских, приемная комиссия.

При отправке писем обязательно вложить конверт с маркой и обратным адресом. Грамоты и разрядные книжки не высылать.

Справки по телефону 266-76-86.

これらの記事・広告の内容はДЮСШの施設や教育内容、スポーツ学校の意義などの論説、父母からの質問や意見に対する回答あるいは入学試験の日程や場所を事務的に公示するものなど多様である。そうした新聞広告の一例を資料-1に示す。新聞広告には1971年～1974年生まれの青少年を対象に選抜することが記されているが学校のタイプはСДЮШОРである。選抜基準のミニマムは、あらかじめ全ソ連邦スポーツ等級(ЕВСК)1～2級程度とされている。出生年度によって必要とされるスポーツ技能のレベルは若干異なっているが、応募者は以下の事項を明記して申請書を提出する。書類審査によって候補者は6月の夏休みに選抜試験を受けるためにモスクワに呼び出されることが記載されている。

- (1)氏名 (2)生年月日 (3)身長・体重・トレーニング経歴
- (4)トレーニングの場所およびそのグレード・進歩の度合い
- (5)自己ベスト記録(1986～1987年:競技会の日時と競技会名)
- (6)現在のトレーニング場所 (7)コーチ・体育教師の氏名および現住所

3. ДЮСШの選抜方法

青少年スポーツ学校の選抜は単に身体的素質やスポーツ技術のレベルが対象となるだけではなく多面的にテストされる。通常、スポーツ学校への入学は前節で紹介した新聞広告によって応募する方法以外に、自分の通学する普通学校やそれらの学校群で組織されたスポーツクラブ(セクション)に入部し、そこでスカウトされるという方法がある。つまり、こうしたクラブは体育教師やДЮСШのスポーツトレーナー等によって指導されており、子どもたちはそれぞれのスポーツ活動に励む中で指導者によってその才能がチェックされるのである。こうした才能チェックは、通常、学年暦に沿って実施され、学期末の試験において選抜された者は更に夏休みのスポーツラーゲリーの期間中に教育的観察や選抜競技会などによって、その才能・資質が見極められるのである。(Этап предварительного отбора)。そして第2段階の選抜では予備選抜された子供たちの才能がより深くテストされる。選考委員会は両親の申告書や競技会・選抜テストの成績、トレーナーの報告、医師の診断書等を重要な判断資料として選抜する(Этап углубленной проверки)。第3段階の選抜は専門スポーツへの方向づけ(Этап спортивной ориентации)である。表-1はソビエトにおけるスポーツマンの選抜システムの概略である。スポーツ学校においては第3段階までの選抜が実施される。ここで表-1の教育学的方法とは身体資質の発達レベル、スポーツ技術の習得レベルの把握などを含意し、医学・生物・生物学的検査とは形態的特質、筋組織などの組成的特質などをチェックするものである。また、心理的検査とは性格、気質的特質についてテストし、社会学的検査とは、当該スポーツに対する関心や興味のあり方などを調査するものである。ちなみに、身体資質に関する選抜基準の一例を見てみると、表-2のようである。これらの数値とわが国における体力標準値との比較検討は、ソビエトのスポーツ学校入学者の身体的プロフィールを明らかにするうえで興味のある問題であるが、ここでは資料紹介にとどめる。

表-1. スポーツマンの選抜段階¹⁸⁾

選抜段階	基本的な選抜課題	選 抜 の 項 目	対 象
I	スポーツ学校における 予備選抜	1. 教育学的観察 2. テスト 3. 面接試験 4. 社会学的調査 5. 医学的検査	多様な年齢層のこども : дети и подростки
II	選択したスポーツにか んするより綿密な適性 判断テスト (スポーツ 学校への入学・登録)	1. 教育学的観察 2. テスト 3. 競技会・選考会 4. 心理学的検査 5. 医学-生物学的検査	同 上
III	各人に最も適したスポ ーツ種目を長期のシス テムテックな調査分析 によって決定する	1. 教育学的観察 2. 選考テスト 3. 競技会・応用テスト 4. 心理学的検査 5. 医学-生物学的検査	青少年 : дети и подростки
IV	各省庁、共和国のスポ ーツ組織代表の少年を 選出	同 上	青年男女 : юноши и девушки
V	各省庁、共和国のスポ ーツ組織代表の青年を 選出	同 上	若者 : юниоры
VI	国家代表選手の選出	同 上	成年スポーツマン

表-2. 身体資質に関する青少年の選抜基準の一例¹⁹⁾

身体資質	性 別	発達と基準					
		8	9	10	11	12	13
・背筋力 [kg]	M	65	75	80	100	110	120
	F	45	60	70	80	90	95
・瞬発力 : 立幅跳 [cm]	M	170	175	180	185	190	198
	F	150	155	160	165	170	175
・サージャント ジャンプ [cm]	M	40	40	50	55	55	60
	F	40	40	50	55	55	60
・持久力: 懸垂90 度肘曲げ[回数]	M	30	35	40	45	50	55
	F	20	25	30	30	35	40
・腹筋: 肘が膝に つくまで[回数]	M	55	60	65	70	75	80
	F	30	35	40	45	55	60
・500m持久走[分]	M	1.45.0	1.42.5	1.46.0	1.37.5	1.35.0	1.32.5
	F	1.50.0	1.47.5	1.45.0	1.42.0	1.40.0	1.37.5
・柔軟性 : 体前曲[cm]	M	+8	+9	+11	+11	+11	+13
	F	+10	+11	+12	+13	+14	+15

[注. 敏捷性として бповторений упражнения: упор присев др (秒). また、巧緻性として разница в результатах гладкого бега на 60m (秒) の項目があるが、具体的なイメージで訳出できないので省略した]

もちろん、これらの基準はひとつの例であり、各スポーツ種目毎にこうした選抜基準が設定されている。たとえば、投擲の場合13~14才の男子の30メートル走は4.9秒、12才~13才の女子は5.2秒、アバラコープ式垂直跳びは男子220センチ、女子は190センチ。砲丸投げは男子10m、女子8m、150gのテニスボールは投げは男子55m、女子は45mとなっている。身長は男子175cm、女子は60kgである。参考までに表-2のスポーツ学校選抜基準と日本人の体力標準値²⁰⁾を比較してみると、背筋力は各年齢層でスポーツ学校の基準値が男女ともに約20kg上回っているが、立幅跳びは13才男子の日本人平均とほとんど変わらずそれほど高い基準とは思われない。ただし、8才~12才の年齢層で20~30cm高い要求水準となっている。これは日本においてもスポーツ学校の入学者を選抜する場合には平均よりも優れた資質を要求すると思われ、特別に旧ソ連邦の選抜基準が高度とは思えない。

次に各スポーツ学校の入学年齢についてみると、表-3のようになっている。

表-3. スポーツ学校の入学年齢²¹⁾

スポーツ種目	年齢	スポーツ種目	年齢
アクロバチック体操	8~9	バイアスロン	9~11
ボクシング	12~14	スキージャンプ	9~10
バレー・バスケット	10~12	陸上競技	11~12
水 球	10~12	水 泳 7~9	
自 転 車	12~14	テ ニ ス	9~10
新 体 操	7~8	バトミントン	10~12
体 操 (男子)	8~9	ヨ ッ ト	9~11
(女子)	7~8	水泳飛び込み競技	8~10
カ ヌ ー	11~13	ハンドボール	10~12
ボ ー ト	10~12	射撃競技	11~13
馬 術	11~12	サッカー	10~11
スケート	10~11	フィギアスケート	7~9
ノルデックスキー	9~11	フェンシング	10~12
アルペンスキー	8~10	重量挙げ	13~14
レスリング	10~12	アイスホッケー	10~11
		チ エ ス	9~12

ところで、上記の表-3のような入学年齢の妥当性はどのような科学的根拠に基づいて定められていたのか。その理論的背景に触れた資料は未だ入手できない。最高の競技力発揮年齢(表-4)やトレーナビリテーを視野にいれて入学年齢を定めていると仮定すれば、その理論的根拠を探ることがソビエトのスポーツ学校を評価するうえで欠かせない。しかしながら、すくなくとも旧ソ連邦のスポーツ学校は、スポーツタレントを強制的に全国から集めるというようなものではなく、これまで概観したように入学選抜に関する手続きは教育的にしかも極めて慎重に取り扱われていたということができよう。スカウトあるいは公募によるしろ希望と承諾の原則にもつづく旧ソ連邦のスポーツ学

校のタレント発掘システムを、いちがいに強権的、非人間的な制度とみなす根拠は薄弱といえよう。

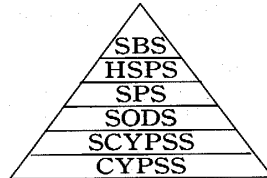
表-4. 最高の競技力を発揮する各スポーツ種目毎の年齢ゾーン²²⁾

種 目	最高	競技力発揮年齢 (男子：女子)	期 待 年 齢 (男子：女子)	維 持 年 齢 (男子：女子)
陸 上 100m		19～21：17～19	22～24：20～22	25～26：23～25
800m		21～22：19～21	23～25：22～24	26～27：25～26
10000m		22～23 ***	24～26 ***	27～29 ***
走り高飛び		19～20：17～18	21～24：19～22	25～26：23～24
槍 投 げ		21～23：20～22	24～26：23～24	27～28：25～26
水 泳		14～16：12～15	17～21：16～18	22～24：19～20
体 操		18～20：13～15	17～21：16～18	22～24：19～20
格 技		19～21 ***	22～26 ***	27～30 ***
重量挙げ		19～21 ***	21～24 ***	25～27 ***
ボクシング		18～20 ***	21～25 ***	26～28 ***
ボ ー ト		17～20 ***	21～25 ***	26～28 ***
バスケットボール		19～21：16～18	22～25：19～24	26～28：25～26
サッカー		20～21 ***	22～26 ***	27～28 ***
フィギュアスケート		13～16：13～15	17～25：16～24	26～28：25～26
ス キ ー		20～22：18～20	23～28：21～25	29～30：26～27
スケート競技		18～19：17～18	20～24：19～23	25～28：24～25
ホッケー		20～23 ***	24～28 ***	29～30 ***

註

1. 今村嘉雄，富山清「ソ連の体育とスポーツ」大修館，昭和33.
2. 飯野節夫，正木健雄，山本文武「ソビエト体育理論」明治図書，1964.
3. 高部岩雄「ソビエト体育学入門」三一書房，1965.
4. 日本体育協会「ソ連のスポーツ行政・機構について」
5. Н. Ф. Кулинка История и организация физической культуры, М., Просвещение, с. 126, 1982
6. 前掲書(1).
7. 川野辺敏「白樺のなかの子どもたち」大月書店，p. 44, 1983.
8. Б. А. Ашмарина, под., Теория и методика физического воспитания, М., с. 236—268, 1979.
9. В. П. Филин и Н. А. Фомин, Основы юношеского спорта, М., ФизС. С.12. 1980.
10. 前掲書(8)с. 263.
11. А. А. Гужаловский, под., Основы теории и методики физической культуры, М., ФизС, с. 284, 1986.
12. 前掲書(9)с. 20.
13. 前掲書(8)с. 263—265.
14. 前掲書(8)с. 265.
15. 前掲書(9)с. 11—12.
16. J. Rordan, Sport under communism, London, p. 43-46, 1978. また，リオルダンとは別の

著書“Soviet Sport”, Basil Blackwell Publisher, p. 51-71, 1980ではスポーツ学校を6種類に分類し、それらをピラミッド形で図示している。



SBS : Sport boading school
 HSPS : Higher sports proficiency school
 SPS : Sport proficiendy school
 SODS : Sports oriented day school
 SCYPSS : Specialist children's and young people's sports school
 CYPSS : CYPSS : Children's and young people's sports school

17. 里見悦郎, 井上一男「ソビエトの青少年スポーツ専門学校制度の研究」第37回日本体育学会口頭発表資料
18. 前掲書(9)c. 187.
19. 同上書c. 193.
20. 東京都立大学身体適性学研究室「日本人の体力標準値」昭和60.
21. 前掲書(9)c. 13.
22. 前掲書(9)c. 110.

Ⅲ. 旧ソ連邦の体育・スポーツ労働者の賃金と資格要件

1. Спорт-в опасности.

「街角の民衆の気分を国会の論議はどれだけ反映しているか」

「国家が病む時、民衆は吊いの鐘を撞き始める……」

1991年5月30日付「ソビエツキ・スポルト」紙はペレストロイカの嵐の中で混迷の度を深めつつあるソビエトの民衆のやるせない気持ちを詠った上記のB.クドリャツツエフの文を一面トップに掲載した。国営商店には食料品もなく、人々はやむなくブラックマーケットやコメルツマガジンで法外な値段の日用品を購入せざるを得ない。“Люди остались без хлеба…….”という現実にはソビエト民衆の怒りは深まるばかりであった。こうした中で8月19日付タス通信はゴルバチョフ大統領の突然の失脚を報道した。20日から始まる新連邦条約調印を前にして共産党指導部の一部保守層と軍産複合体を中心にしたクーデターが起こったのである。しかしながら、この世界を震撼させた政変劇はソビエト民衆の支持を得ることができずに3日間で失敗に帰した。周知のようにソビエト社会はこの政変劇を契機に劇的な変化を展開した。ソ連共産党は解党に迫り込まれ74年間の党の歴史に終止符を打つことになり、連邦は崩壊して新たに旧ソ連10カ国で構成する独立国家共同体(CIS)が発足した。自由と人権の守護者として歴史の舞台に登場した共産党が、その反対の抑圧者に変質したところにソビエト型共産主義の重大な欠陥があった。共産党の解体に歓呼の声を送った民衆の姿にこの党の崩壊の歴史的必然性を読み取ることができる。

このように社会主義経済大成が破綻し、市場経済の導入へとつきすすむ中で体育・スポーツが財政的に最も弱い分野のひとつであったことは連邦最高会議員のB.H.ロガーチンも指摘していたとうりである¹⁾。「市場」への遅れためざめの中で²⁾、今後、CIS各国はどのようなスポーツ政策を展開していくのか。いずれ新たなスポーツ体制が確立されていくものと思われるが、それは旧ソ連邦時代の遺産とどのように関連するのであろうか。旧制度の何が廃棄され、何が継承されていくのか。ここでは、既に過去の遺物として歴史の片隅に忘れ去られようとしている旧ソ連邦時代のコーチ制度について、特にソ連邦崩壊寸前の1991年5月20日に制定された新しい賃金率を中心に整理しておく。

2. 身体文化・スポーツの指導監督機関

これまで「ソビエト国家は、国民の健康の維持増進を重視する唯一の国家²⁾」であり、「国民の健康の保護はソビエト国家の重要な任務のひとつ³⁾」であるとされていた。周知のように、身体文化・スポーツの社会的地位はソ連憲法第49条にその法的基礎をもっていた。こうした実定法にもとづいて体育・スポーツの具体的な政策課題が提起され、党や内閣、スポーツ委員会などが省令や決議という形(закон, указ, постановление)で方針を決定してきた。

- 1) 全体的な指導監督機関は、連邦および共和国の内閣、州・地方・都市・地域のソビエト人民議会執行委員会などである。その権限の内容はスポーツ施設の建設や体育・スポーツ要員の教育、スポーツ用品の生産計画などについてである。たとえば、1965年10月4日「社会主義国家生産企業体に関する規定」とか1966年8月12日付「わが国における体育・スポーツの指導の強化について」などがその一例として挙げられる。
- 2) 限定的権限を持つ機関としては体育・スポーツ委員会がある。(№665)により体育・スポーツ政策の実質的な執行機関としての権能を有していた。一般的には、共産党中央委員会や連邦内閣との共同決議という形で発令されることが多い。たとえば、1976年の「第25回共産党中央委員会総会の達成に関するわが国の体育・スポーツ組織の課題について」や1974年12月9日付の全ソ労働組合中央委員会書記局・レーニン主義青年共産主義同盟中央委員会及び連邦内閣体育・スポーツ委員会決議「ソビエトスポーツマンの思想的、政治的、道義的意志的教育をより一層強化する方途について」などに見られる権限の例である。
- 3) 文部省はスポーツ委員会との連携のものに、主として学校体育に責任をもつ、たとえば、1972年3月30日の「高等・中等教育へのΓTOの導入について」などがその一例である。

体育・スポーツ分野には体育教師、トレーナー、インストラクター、メトードистなどの職種がある。労働賃金は職種・学歴・資格・称号の有無などによって基本となる賃金率が異なり、週の実労働時間に応じて毎月の給与が決定される。就職にはそれぞれの職種に応じた学歴や実務経験が必要とされ、ディプロマや証明書などの提示が義務づけられ、選考基準に照らして採用される。採用には政治的資質、道徳的資質、実務能力、

組織的力量などが考慮され、それぞれの勤務地に配属されたのである。通常、労働の契約期間には終身雇用と期限付き雇用のふたつの形態がある。期限付き雇用は主として勤務条件の厳しい地区への配置の場合に採用される。

たとえば、1967年9月26日付のソ連最高会議幹部会令によればシベリア地区への配属は3年契約であり、北極海地区では2年の契約が基本とされた。公募などによる大学教員の採用の場合、5年任期を基本に再契約を繰り返す雇用形態をとっている。このように労働時間、休暇、退職の規定も含めて労働契約の具体的内容は労働法に明示されている。それでは体育・スポーツ分野の労働賃金は具体的にはどのように決定されていたのか。

3. 1976年-80年次における労働賃金算出方法について

- 1) 高等学校を卒業し、スポーツ・トレーナーや指導者として4年間の職歴のある者で週24時間、基本月給100ルーブルの労働契約の場合、その実質労働が週36時間であれば

$$\frac{100\text{py}\delta \cdot \times 36\text{ч}}{24\text{ч}} = 150\text{py}\delta.$$

- 2) 功労スポーツ・トレーナーの称号をもち、1級資格に該当する者で週24時間、基本月給180ルーブル（基本月給160ルーブルに名誉給として20ルーブル加給される）の場合、その実質労働時間が週18時間であれば、

$$\frac{180\text{py}\delta \cdot \times 18\text{ч}}{24\text{ч}} = 135\text{py}\delta.$$

- 3) 12年間勤続の上級資格のトレーナーまたは指導者で週24時間、基本月給155ルーブルの場合、その実質労働時間が週28時間であれば、

$$\frac{155\text{py}\delta \cdot \times 28\text{ч}}{24\text{ч}} = 180\text{py}\delta. \text{ 83kop.}$$

- 4) 日給の計算が必要な場合。

国際大会や全ソ連邦大会に選手として参加すると、基本給に30ルーブル加給され、共和国大会の場合は20ルーブル加給される。たとえば、基本給150ルーブルの労働者が連邦大会選抜選手としてトレーニングに参加した場合の10日間の日給は、10月の労働日が26日あるとして、

$$\frac{150\text{py}\delta \cdot + 30\text{py}\delta}{26\text{ч}} = 69\text{py}\delta. \text{ 21kop.}$$

5) 時間給の計算が必要な場合。

高等教育を受け、スポーツマスターの称号をもち、トレーナーとして8年間在職、基本給110ルーブル、基準労働時間が週24時間、月に101.6時間労働の場合16時間の割増し賃金は、

$$\frac{110 \times 16}{101.6} = 17 \text{py6. } 32 \text{kop.}$$

6) 教師の場合、次の4つのグレードにより労働賃率が異なる。

- A) 大学卒
- B) 教員養成大学における在学期間
- B) 中等専門学校卒
- Г) 中等普通学校卒

さらに、こうした学歴による違いに加えて在職期間によってもそれぞれの労働賃率は5つのグループに分類される。

- a) 5年以下. б) 5年～10年. в) 10年から15年.
- г) 15年～25年. д) 25年以上.

また、教師が功労スポーツマスターの称号を有する場合、月10ルーブルが加給される。そして学校や少年の家などにおける特別クラスを担当した場合には、労働賃率が25%改善される。

ところで、旧ソ連邦国家スポーツ委員会はその管轄下に95の大学と研究所および300のスポーツ学校、55のトレーニングセンター、26の工業企業をもち、98000人の職員を擁していた。国家スポーツ委員会の中央機関の職員は448人、平均月給は幹部が557ルーブル、主任クラスで400ルーブルであったという（1990年5月21日付「日刊APNプレスニュース、No4548」）。こうしたエリート達は別にして旧ソ連国家統計委員会の「仕事と賃金」に関する10万人調査によれば、当時の大多数のソ連人が望む理想的な給与は月額300ルーブルであった。これからみてもエリートであった国家スポーツ委員会中央機関職員の給与水準がの高さが看取されるのである。反対に、一般の体育・スポーツ関連職員の賃金は先に見た労働賃率の算定方式のようにソ連の平均月収（月額200ルーブル）以下である。

もっとも、連邦の崩壊寸前には最低生活費が公的には78ルーブル、実際にはインフレや物不足で月額最低100ルーブルが必要とされ、この貧困ライン以下の生活困窮者は人口の4分の1の約7090万人にもなるという報道からすれば⁴⁾、先の賃率が10年前のものであることから勘案して一般のスポーツ関連職員の生活もそれなりに保障されていたといえることができる。

3. 1991年の新賃金律の制定について

国家スポーツ委員会とДЮСШ中央委員会は1991年5月22日、「身体文化・スポーツ

の主要施設および機関に働く労働者の賃金を改善する件について」(No6/4a-13)という決議を採択した。また、1991年3月19日、連邦内閣は身体文化関連の企業、施設、組織(連盟・スポーツ施設、スポーツクラブなど)に働く労働者の労働賃金について、今後はソ連邦最高会議の新しい最低賃金法に従うことを決議した。最低賃金の基準は、1) スポーツマンの技術レベル、2) 学歴、3) スポーツ組織への所属機関、などによって異なっている。

1) 技術レベル

連邦選抜チームの正選手(150py6.), 補欠選手(75py6.), 予備選手(50py6.)

2) スポーツ学校におけるトレーニングレベル(表-1のI~IIIの3つのグループに分類されるスポーツ種目によって異なる)

表-1. トレーニング・レベルと最低賃金率(単位: ルーブル)

トレーニング・レベル	I	II	III
最上級のスポーツマスター・クラスのコースの全期間を終了する	40.0	25.0	35.0
スポーツ能力向上コースで1年間トレーニングを積む	20.0	10.0	15.0
同上コースで1年以上のトレーニングを受ける	30.0	15.0	25.0
学習トレーニング・クラスに1年間在籍	8.0	4.0	5.0
同上クラスに2年以上在籍	14.0	6.0	10.0
初級クラスに1年以上在籍	2.0	2.0	2.0
初級クラスに2年以上在籍	3.0	2.5	2.5
初級クラスに11才まで在籍	2.5	2.5	2.5
初級クラスに12才~17才まで在籍	2.0	2.0	2.0

3) スポーツクラスの定員および認定資格

- ・スポーツ学校におけるそれぞれのクラスの定員は、生徒の学習レベルや学習プログラムの課程に応じて決定される。
- ・スポーツ・健康クラス・体育・保健クラス・スポーツセクションなどを指導する基準賃金は、2年事に0.5%ずつアップする。
- ・週の基準労働時間はおよび生徒定員は表-2の通りである。
- ・水泳、シンクロナイズドスイミング、飛び込み、水球などの初級クラスの1クラスの生徒定員は15名である。
- ・フィギュアスケート、アイスダンスの技術改善クラスおよび上級のスポーツマスタークラスの1クラスの生徒定員は4名である。
- ・連邦選抜チームのメンバーであるいは補欠選手の週の学習・訓練時間は36時間までとする。
- ・表-1の[表1グループに分類されるスポーツ種目]は、アクロバット体操、バイアスロン、ボブスレー、競技体操、新体操、アルペンスキー、スキー二重競技、スケート、十種競技、七種競技、投擲・跳躍六種競技、ヨット、飛び込み、スキージャンプ、ソリ競技、シンクロナイズドスイミング、近代五種、フィギュアスケート、

自転車競技，水上スキー，自動車競技，モトクロス，モーターボート，飛行機，ヘリコプターパラシュート，グライダーである。[第Ⅱグループのスポーツ種目は]チームスポーツであり，[第Ⅲグループ]はその他のスポーツである。

表－２ 技能レベルと生徒定員

スポーツレベル および学習段階	在学期間	教授・ 学習時間	生徒定員		
			I	II	III
上級スポーツマスターの能力 向上	全	32	3	6	5
	1	24	6	6	4
	2	26	1	4	6
	2年以上	28	5	6	5
スポーツ・トレーニングクラ ス	1	12	8	12	8
	2	14	12	10	6
	3	18	10	6	12
	3年以上	20	8	12	8
初 級 段 階	1	6	16	18	18
	1年以上	8	20	14	16
スポーツ・健康クラス	全		20		

・トレーニング効果および学習効果の評価は試合の成績やテストによっておこなうスポーツトレーニング・クラスの生徒で不合格となった資質のない生徒はスポーツ・健康クラスへの移動を勧められる。もちろん，移動後に技術向上が認められる場合には，直ちにその年度内にスポーツトレーニングクラスに復帰できる。

・スポーツ学校におけるスポーツマスターコースのレベルは次の条件を必要とする。

①数年のうちにスポーツマスター候補やスポーツマスター以上のスポーツ称号を取得できる可能性または確実性のある生徒であること。

②スポーツ能力向上クラスは，当該スポーツ種目のノルマを達成できる可能性が要請される。チームスポーツは18才で全ソスポーツ等級（EBCK）1級，個人スポーツは18才で青年スポーツ等級1級，その他のスポーツはスポーツマスター候補などである。

・オリンピック予備学校において，第8学年相当の基準賃金はスポーツ学校の学習トレーニングコースで2年以上学習した生徒に適應される。オリンピック予備学校のスポーツマスター候補の資格をもつ9-11学年の生徒は，8学年の場合も同様であるがスポーツ技術向上コースで1年以上学習したことに相当する。連邦スポーツマスター以上のスポーツ称号をもつ1-2学年の生徒は，スポーツ学校の上級スポーツマスターコースの学生に相当するものとみなされる。

また，付則No.8では労働賃金の算定方法を次のように定めている。

[スポーツトレーナーおよび教師の労働賃金の算定方法に関する細則]

(1)本規則はスポーツ学校のトレーナー，職員だけではなく体育・保健クラスやスポーツ

セクションの労働者にも適用される。

- (2) トレーナーの月給は毎年の会計年度のはじめに当該労働者の賃金基準表にもとづいて決定される。
- (3) 賃金率は当該年度の基準の見直しがあれば変更される。
- (4) 賃金表にもとづく労働賃金は、その月の週の数や労働日の数に関係なく毎月一定額支払われる。
- (5) トレーナーの給料額は割増し賃金と労働計画に沿った教授・指導活動による労働賃金率によって決定される。教授・指導活動の労働量は、生徒数および指導スタッフの数など当該スポーツ学校や組織の具体的条件によって配分される。
- (6) 割増し賃金の算定基礎は、労働賃金率にもとづくノルマをこなすスポーツ学校や組織の指導者本人のその労働賃金である。
- (7) 労働賃金率にもとづく労働時間のノルマが超過勤務としての週労働時間を算定したり、増し賃金を支払う基礎となる。
- (8) 時間賃金の計算は病気やその他の理由で交替がある場合に計算される。
- (9) 上級資格を有する指導者（連邦選拔選手、候補選手、ヨーロッパ選手権や世界大会第一位）は、2年以上継続してスポーツ学校のトレーニング・コースで学んだ者と同等の資格があると認定される。スポーツ学校の管理職、専門家、職員（ディレクターを含む）が上級クラスを指導する場合の割増し賃金は、上級資格をもったスポーツマンと同様に算定される。
- (10) 連邦選拔の正選手・候補選手・補欠選手、ヨーロッパおよび世界選手権代表選手の認定は、共和国の体育スポーツ委員会、モスクワおよびレニングラードの市委員会共和国と連邦のЦК・ДЮСШФ、連邦体育・スポーツ委員会、各スポーツ種目毎の全ソ連邦レベルの連盟によってなされる。

5. 身体文化・スポーツ関連職員の職務と資格

体育・スポーツ分野に働く専門家の職種やその資格要件については、付則NO. 9「身体文化・スポーツ関係職員の職務と資格」にその規定が見られる。

[トレーナーおよび教師の資格]

1. トレーナーおよび教師は前歴に関係なく、体育に関する大学教育（中等専門教育を含む）の卒業資格が要請される。
2. トレーナーおよび教師は表-3にしたがって評価され、資格認定される。
3. トレーナー、教師、オルガナイザー、メトディストおよび管理職の仕事などは表-4の職種、在職期間に沿って分類される。
4. 《連邦功労トレーナー》の称号をもつトレーナーは、在職期間に関係なくトレーナーとして最上級のカテゴリーに分類される。

《共和国功労トレーナー》あるいは1級か上級の資格に該当する連邦選拔選手または候補選手は、もし彼等が上級資格に相応しい成長を遂げていない場合には2級資格の段階を繰り返すことが要請される。

5. 2級資格のトレーナーで、より上級に昇格できる有資格者は同一の段階に3回以上とどまらずに昇格できる。
6. 国立中央レーニン体育学校の上級トレーナーの卒業証書補有者は、上級資格のトレーナーに分類される。

体育大学または総合大学か教育大学の体育学部の成績優秀な卒業証書あるいは《連邦スポーツマスター》以上のスポーツ称号をもった上記の大学や学部の卒業証書の保有者は2級の資格に分類される。これらの資格は卒業と同時に授与される。

[スポーツ学校のインストラクターおよびメトーディストの資格]

1. スポーツ学校のインストラクター・メトーディストは、体育・スポーツに関する高等教育（中等専門教育を含む）が必要とされる。
2. 以下のインストラクター、メトーディストに該当する資格が授与される。

2-1. 上級カテゴリー

1級カテゴリーはスポーツ称号の《連邦スポーツマスター》以上あるいは1級審判の資格を持つトレーナーに授与される。

教授法の研究、連邦選抜選手の訓練の経験や結果の一般化、スポーツ学校における実践や教授プログラムの出版およびそれらの導入という業績は、連邦国家体育・スポーツ委員会または連邦ЦК・ДЮСШФによって認定される。このカテゴリーのインストラクター・メトーディストあるいはトレーナーの在職期間は5年である。

2-2. 1級のカテゴリー

2級のカテゴリーは《連邦スポーツマスター》以上のスポーツ称号あるいは1級審判の資格をもつトレーナーに授与される。

教授法の研究、連邦選手権第1位以上のトレーニング経験と結果の一般化、スポーツ学校における実践や教授プログラム（選択プログラム）の出版と実践の定着化などの業績が必要。これらの在職期間は5年である。

2-3. 2級のカテゴリー

・《連邦スポーツマスター》以上のスポーツ称号あるいは1級審判のトレーナーに授与される。教授法の研究やスポーツ等級1級（少年スポーツ等級1級）以上のスポーツマンに対する数年にわたる結果と経験の一般化およびスポーツ学校における教授活動の出版とそれらの実践の定着化などの業績が必要。これらの在職期間は3年である。

3. 体育・スポーツ組織のトレーナー・教師・オルガナイザー・メトーディストは表-4の基準にしたがって資格が授与される。
4. スポーツ学校の新学期に資格の授与を受けるためには、新たに研究業績や実践記録あるいは教授法の研究や科学論文の出版などの業績提示が必要出ある。
5. 《連邦または共和国功労スポーツマスター》の称号をもっているインストラクターやメトーディストは、その在職期間に関係なく上級カテゴリーの資格を授与される。

[体育・スポーツ組織のインストラクターおよびメトードイストの資格]

1. 上級カテゴリーのインストラクターおよびメトードイスト（アルピニズム、戦技スポーツ、救助技術）は、体育の高等教育を受けてから1級資格のインストラクターおよびメトードイストとして3年以上の在籍期間が必要である。
2. 1級カテゴリーのインストラクターおよびメトードイストは、体育の高等教育を受けてから2級資格での勤務を3年以上、あるいは中等専門教育を受けて2級資格を習得してから5年以上の勤務が必要である。
3. 2級カテゴリーのインストラクターおよびメトードイストは、体育の高等教育を受けてから3年以上、中等専門教育を受けてから専門職として5年以上の勤務が必要である。
4. インストラクターおよびメトードイストは、体育の高等教育あるいは中等専門教育を受け、体育・スポーツ組織で3年以上勤務することが必要である。
5. トレーナー、教師、オルガナイザー、メトードイストおよび管理職の資格は、表-4の認定基準にしたがって授与される。

[補 遺]

1. 資格は認定基準にあるスポーツ訓練や当該学期の始めから終わりまでの進級テストに75%以上のスポーツマンを合格させた実績をもつトレーナーに授与される。
2. 資格は過去2年間の業績に対して付与される。
3. 共和国・モスクワ・レニングラードの優勝者は、表-3の第5項の条件を満たしたもののみなされる。
4. 第5項～第8項の人数はスポーツ種目や競技の人数を考慮して決定されている。
5. クラスの人数は学期始めに決定される。
6. トレーナーとしての勤務期間とは資格要件を達成した時点までをいう。
7. 集団指導に携わらないトレーナーの業績は第7項a), 6)にしたがって評価される。
8. 個人種目のトレーニング業績は表-3の第1項～第6項, 第7項a), 第8項6), B)に沿って評価される。

表-3. 体育・スポーツ関係職員の資格認定基準

業績評価基準	競技成績	指導生徒数	勤続年数		
			上級	1級	2級
1. 連邦選抜選手の指導	*****	4人	3年	2年	**
	*****	2人	1年	**	**
2. 連邦選抜候補選手の指導	*****	1人	5年	3年	**
	*****	2人	3年	2年	**
3. 連邦選手権大会で指導した選手の成績	1-3位	1人	3年	2年	1年
	4-6位	1人	**	3年	2年
	7-12位	1人	**	**	3年
4. 世界選手権に連邦選抜選手として参加させる	*****	1人	**	3年	**
5. 全ソ労働中央評議会選手権「ディナモ」	1-3位	1-2人	**	3年	2年

選手権・防衛力全ソ選手権・「トルードビエ」 全ソ選手権・「ダサフ」全ソ選手権大会で指 導した選手の成績	3-6位	1-2人	**	**	3年
6. 主要なチームへ選手を送る					
a) 上級チームへ, 1部リーグ	*****	1-2人	**	3年	**
6) 2部リーグ	*****	1-2人	**	**	3年
7. 選手の育成					
a) オリンピック候補選手の育成	*****	3-6人	**	4年	2年
6) エリート選手の育成	*****	3-6人	**	4年	**
B) 初級スポーツマンの指導	*****	18-24	**	**	**
8. 各レベルの選手の指導					
a) 基礎的訓練	*****	18-24人	**	**	**
6) トレーニング	*****	12-18人	**	**	**
B) 高度な技術指導	*****	3-6人	**	**	**

表-4. 勤続年数と資格

勤 務 の 内 容	勤 続 年 数		
	上級	1級	2級
1. トレーニング・教師の仕事			
a) 連邦選抜チームにおける勤務	3年	2年	
6) 全ソ労組中央評議会選抜チーム, ディナモ選手権, ソ連防衛力選 手権, ダサフ選抜選手権, 全官庁中央オリンピック訓練選抜チ ームでの勤務	5年	4年	
B) 主要チームにおける勤務			
上級リーグ	4年	3年	
1部リーグ	5年	4年	
2部リーグ	6年	5年	2年
2. 体育・スポーツ組織の指導機関におけるオルガナイザーメトーディ スト, 監督の仕事			
a) 国家体育スポーツ委員会	4年	2年	
6) 共和国, モスクワ市, レニングラード	5年	3年	
B) 自治共和国, 地域	8年	4年	2年
г) 都市, 地方	10年	6年	4年
д) スポーツ連盟			
連 邦	4年	2年	
共和国, モスクワ, レニングラード, ディナモ, トルドビエゼル ビ, 全ソ労組中央評議会, ダサフ	5年	3年	
3. 体育・スポーツ組織における勤務			
a) ディナモ, トルドビエゼルビ, 任意スポーツ団体, 連内閣スポ ーツ委員会, ダサフ及びその傘下スポーツクラブ	5年	3年	2年
6) 上記の共和国レベルの傘下のスポーツクラブ	6年	4年	2年
B) 上記の自治共和国, 地域, 州の傘下スポーツクラブおよび陸軍ス ポーツクラブ	8年	4年	2年
4. 監督の仕事			

a) 上級スポーツ学校, オリンピック予備軍学校, 青少年スポーツ専門学校	6 年	3 年	
6) 青少年専門学校 (スポーツ総合学校を含む)	8 年	4 年	2 年
5. 体育分野における科学・教育的仕事・科学研究機関および高等教育機関におけるスポーツトレーナーの仕事			
a) 学位, 称号のある場合	6 年	3 年	
6) 学位, 称号のない場合	10 年	4 年	2 年

[表-4 の註]

1. 勤務期間は上記期間の満期をもって計算される。
2. 昇格のための審査書提出の時点までが勤務期間として計算される。
3. 上記の組織・期間を退職する場合, 資格はその退職する日まで有効である。
4. 第2項は, 法人格をもつ場合や独立採算制のスポーツ組織の常勤の専門職にも適用される。

[スポーツトレーナー, 教師, インストラクターおよびメトードистの資格]

1. スポーツ学校のトレーナー, インストラクター, メトードистおよび体育スポーツ組織の上級カテゴリーの資格は, 共和国, モスクワ市, レニングラード, 地方, 州, 連邦ダサフ中央委員会の体育スポーツ組織およびその中央機関によって授与される。
2. トレーナー, インストラクター, メトードистの資格を受けるためには上記の体育スポーツ指導機関に申し出る。この場合, 体育に関する高等教育または中等専門教育の卒業証明書のコピーや現在保持する資格, スポーツ称号の認定書・勤務年数の証明書を提示する。1 級, 2 級の資格習得をする場合には職場の管理職に提示するればよい。
3. 体育スポーツの指導機関およびダサフ委員会は, 資格授与する管理機関を毎月視察する義務がある。
4. 資格の授与に関する問題は, 体育スポーツ委員会の監督機関およびダサフ委員会によって取り扱われる。
5. 資格は 5 年間有効である。
6. 資格を授与された者は模範をとらなければならない。
7. 労働賃金率は資格を付与された時点での賃金が支給される。
8. 資格を授与される権利を有した場合, 遅くとも 1 ヶ月以内にその資格授与に関する申告書を添えて該当する組織に請求する。

註

1. "Не Могут Молчать" 「ソビエツキースポルト」, 1991.5.30付。
2. Програма Коммунистической партии Советского Союза, М., Политиздат, стр. 96, 1974.
3. Ведомости Верховного Совета СССР, стр. 466, 1969. №52

IV. 中国におけるコーチ資格

中国のスポーツ選手養成には全国統一の「教学・訓練大綱」があり、一貫した系統的指導がなされている。経費は総て国から支給され、スポーツ選手の等級によってその待遇が異なる。選手の等級は以下の通りである。

健将級：ボール類のスポーツ種目などで一般的に中国選手権大会で6位以内、但し水泳の場合は等級標準（競泳のタイム）にもとづいて等級が決定される。健将級の選手は優秀運動隊やナショナルチーム、解放軍チーム（待遇などの条件が良い。したがって、多くの優秀な選手は解放軍チームに入ることを希望する）などにスカウトされ、本人の希望と承諾にもとづいてそのチームに入るのが通常のケースである。チームに所属すると戸籍も移動させる。

- 1 級：優秀運動隊に入る技能レベルである。
- 2 級：80%以上は业余体育学校に在学している。
- 3 級：业余体育学校に在学。

選手らはこれらの技能レベルに応じたチームや学校に所属してトレーニングに励むことになるが、その概略は以下の通りである。即ち、中国の選手養成は高級、中級、初級の三層システムになっているといえることができる。

高級：ナショナルチーム、解放軍チーム、各省・市・自治区代表チーム、各産業代表チーム、体育学院チーム、その他の大学チーム。

中級：体育運動学校、重点业余体育学校、単種目運動学校、体育中学および高等学校、体育学院附属競技学校。

初級：普通业余体育学校、小・中学校业余訓練隊。

これらの三層システムにおける選手養成にかかわる専門家がコーチである。コーチとしては1981年の「体育教員（コーチ）技術等級規定」があるが1991年に改訂され、その資格授与要件が厳しくなった。即ち、従来のコーチ資格は自己申告制にもとづき管理職が認定する終身制の資格であったが、新しい資格認定制度では必ずコーチ養成コースを受講し、「コーチ資格訓練コース合格証」を取得しなければならない¹⁾。コーチ養成コースでは、原則として2ヶ月間合宿し210時間の講習を受けなければならない。講習の内容は生理学、生心理学、生物力学、医学、選材学、管理学、スポーツの専門理論（コーチ学）などである。担当講師は全国の優秀な教授と高級コーチの中から任命される。

高級コーチ養成コースは、国家体育委員会の主管で北京体育学院、上海体育学院、成都体育学院、西安体育学院、瀋陽体育学院、武漢体育学院の六ヶ所の直属の体育学院で実施される。中級および初級コーチの養成コースは、各省および自治区の体育委員会が担当する。コーチの資格は表-4に示すように5段階に分類される。

「国家級コーチ」及び「高級コーチ」は大学の教授や助教授クラスと同等の社会的処遇

が与えられ、1級コーチは大学の講師クラスと同等に位置づけられる。中国におけるスポーツコーチの給与水準は高く、社会的にも恵まれた地位にある。一般の労働者のエンゲル係数は高く、通常、所得の約70%が食費などに費やされるのに対し、コーチは選手と共に食べるために食費がかからず、表-1に示す給与の中の可処分額に余裕があるといえることができる。さらに指導している選手が国際大会などで活躍すれば、ボーナスとしての報奨金が支給されるという特典もある。表-1に示す給与標準は1985年9月から実施されたものであるが、現在この標準表は改訂中である。尚、これらの標準表には食事手当と報奨金は入っていない。また、改革・解放路線の中で社会主義的市場経済への法的整備が進められつつあるが、1993年7月からは公務員制度などが導入されるという。このことは別言すれば、公務員以外の給与（労働力の価格）は自由競争の市場原理にまかされるということの意味している。表-1の支給総額は基本給与に職務給与を加えた合計額である。

表-1 ナショナルチーム・コーチの基本給料、職務給与基準表（単位：元）¹⁾ (1981)

項 目	基本賃金	職 務 給 与									
		一	二	三	四	五	六	七	八	九	
ヘッド コーチ	五類地区	39	185	160.5	146	136.5	126.5	117	107	97.5	38.5
	六類地区	40	190	165	150	140	130	120	110	199	91
コーチ	五類地区	39	146	136.5	126.5	117	107	97.5	88.5	80	71
	六類地区	40	150	140	130	120	110	100	91	82	73
助 手	五類地区	39	71	63.5	55.5	47.5	41	35	29	***	***
	六類地区	40	73	65	57	49	42	36	30	***	***

[註] 具体的な給与表は省略するが、省、自治区（都道府県）、市レベルの優秀チームのコーチの基本給および職務給は、ナショナルクラスのコーチに比較して約10元から20元給与水準が低い。さらに地区レベルの各種体育学校（业余体育学校）のコーチの給与は、ナショナルクラスに較べて約20元～40元給与水準が低くなっている。比較のための参考資料として大学教員の給料表（表-2）とスポーツ選手の体育手当基準表（表-3）を示す。尚、中国の大部分の地区は六類地区としての給与基準表が適用され、五類地区は限られた僻地に適用される。

表-2 大学教員の基本給与および職務給与基準表（単位：元）

項 目		基本 賃金		職 務 給 与							
				一	二	三	四	五	六	七	八
教 授	五類地区	39	307*	253*	209.5	185	160.5	146	136.5	126.5	117
	六類地区	40	315*	260*	215	190	165	150	140	130	120
助教授	五類地区	39	185*	160.5*	146	136.5	126.5	117	107	97.5	88.5
	六類地区	40	190*	165*	150	140	130	120	110	100	91
講 師	五類地区	39		107*	97.5	88.5	80	71	63.5	55.5	
	六類地区	40		110*	100	91	82	73	65	57	
助 手	五類地区	39			55.5	47.5	41	35	29		
	六類地区	40			57	49	42	36	30		

[註] *印は著しく業績のある極めて少数の教授に適用される。

表-3 スポーツ選手の体育手当基準表 (単位: 元) (1985年9月より実施)

項 目		一	二	三	四	五
世界記録保持者	五類地区	165.5	156	146	136.5	126.5
国際選手権一位	六類地区	170	160	150	140	130
国際大会8位以内	五類地区	146	136.5	126.5	117	107
	六類地区	150	140	130	120	110
中国選手権1位 アジア大会1位	五類地区	126.5	117	107	97.5	87.5
	六類地区	130	120	110	100	90
同上大会8位以内	五類地区	107	97.5	87.5	78	68
	六類地区	110	100	90	80	70
省、自治区レベルの 代表選手	五類地区	87.5	78	68	62.5	56.5
	六類地区	90	80	70	64	58

表-4 中国コーチの等級と資格授与要件²⁾

等級	授 与 者	授 与 要 件
国家級	国家体育運動委員会	3年以上高級コーチを経験し、成績卓抜な者で専門種目の理論と技術に精通し、比較的高度な体育理論の知識と豊かなトレーニング経験および研究能力をもち、専門種目の外国語専門書を読む能力がある。
高級	国家体育運動委員会	1級コーチを経験し、成績優秀な者で専門種目の系統的な理論と技術および体育理論全般についての知識をもち、トレーニング経験が豊かで科学と実践を結合させる能力がある。
一級	省、自治区直轄市体育運動委員会	2級コーチを経験し、成績優秀な者で専門の種目について系統的なコーチング理論と技能をもち、あわせて一定の体育理論の知識がある。
二級	同 上	3級コーチを経験し、初級水準の選手のコーチング能力のある者および1年間以上体育学院本科で研修した者あるいは体育学部(体育学科)の卒業生。
三級	同 上	1年間研修した体育運動学校の卒業生またはコーチ学専科の修了生。

註

1. 国家体育委員会「関于在“八五”期間開展教練員*位培訓工作計画」
2. 同上

V. まとめにかえて

スポーツタレントの合理的な発掘方法に対する関心が世界的に高まっている。1978年には英国ナショナルコーチ協会(British Association of Coaches)主催の国際会議も開催されている。これらの背景にはスポーツにおける勝利が国家の威信を高めたり、ある

いはまた国民的統合をはかるうえで有効であるとするスポーツ観がある。今日、各国は競い合うようにオリンピックや国際大会などでメダル獲得に狂奔し、メダリストには報奨金を支給するスポーツ政策をおしすすめている。もちろん、こうしたスポーツ観やスポーツ政策に対しては批判もある¹⁾。もとより、本稿の目的はこうしたスポーツ政策のあり方について論議することにはない。社会主義体制下の中国と旧ソ連邦のスポーツタレントの発掘方法およびコーチ資格などの制度的特徴について、その事実を整理することになった。即ち、第一の特徴は、中、ソではスポーツタレントの発掘およびコーチの養成が国家的事業のひとつに明確に位置づけられていることである。確かに、多くの資本主義社会においてもエリートスポーツの推進が国家的事業のひとつに位置付けられていることには変わりがないが、基本的にはスポーツ連盟や各スポーツクラブなど民間の自助努力によってスポーツタレントの発掘と養成がおこなわれている。それに比して社会主義社会ではスポーツタレントの選抜基準と養成方法が一元的な国家管理の下に置かれている。第二の特徴としては、資本主義社会におけるスポーツコーチの社会的身分が極めて不安定であり、多くのコーチは無報酬のボランティア・コーチであるのに対し、中、ソにおけるコーチ制度は初歩的なスポーツ指導からエリートスポーツの指導に至るまでその資格要件と給与水準が明示され、社会的有用労働として安定的な地位を得ている点である。日本においてもスポーツ指導者やコーチ資格の制度は整備されつつあるが、給与などの経済的保障の無い単なる資格認定にとどまり、スポーツコーチとして生活できる制度的保障はない。したがって、エリートスポーツ選手が競技生活引退後にその経験と技術を生かしてコーチとして生活することは極めて難しい状況にある。

スポーツを社会的にどのように位置づけるか。あるいはスポーツと国家の関係は如何にあるべきかなどの問いに一義的に答えることは難しい。これらの問題に対する各人の考え方は多様であろう。しかしながら、国家の考え方は暗黙のうちにその国のスポーツ政策に映しだされてくる。たとえば、社会主義体制の崩壊に伴う経済的混乱にもかかわらずエリツィン・ロシア大統領は1993年4月16日に、1996年のアトランタ五輪に向け法的に該当選手らを優遇、支援する文書にサインしたと報道された（モスクワ16日、タス共同）。このように、まずもって国民スポーツの振興や健康の維持増進が論議されるというのではなく、エリートスポーツ優先のスポーツ政策が確定されるところにその国のスポーツ観の一端を読みとることができる。

これらは社会主義か資本主義かという社会体制の違いに由来するというよりも、スポーツを社会的に如何に位置づけるかというその国のスポーツ・イデオロギーの違いにもとづくものと考えられるが、この点に関する論議は別稿に譲りたい。本稿では中国および旧ソ連邦のスポーツ制度について、スポーツタレントとコーチ制度という視点から概観した。スポーツクラブの組織的特徴などについても整理しておく必要がある。

註

1. 健康とからだの教養研究会編、「スポーツにおける拝金主義・アマチュアリズムの黄昏」『健

康とからだの教養』所収，学術図書出版，173-178頁，1993.